

# 全進研/春のセミナー2015

● 5月17日(日)

● 13:30~16:00

● 会場 武蔵野プレイス

(JR中央線:武蔵境駅南口すぐ)

■ テーマ

## 「大学入試改革」の ねらいとゆくえ

「共通一次」試験を経て、1990年から始まった「大学入試センター試験」。「高大接続」の制度が、いま大きく変えられようとしています。その改革・改変、その真のねらいはどこにあるのでしょうか。

現在、明らかにされる改革内容はどのようなものか。さらに、その改革は、直接に高校生・高校教育の内容はもちろん、「中高接続(高校入試)」に、中学生・中学校教育の内容に大きな影響を及ぼすことが考えられます。

今春中学に入学した生徒の学年から「変える/変

わる」ことで、この機会をビジネスチャンスととらえる教育産業の動きも、表に出ています。

そうした対策や処方箋を考える前に、現在の中等教育(中学校と高等学校の制度と教育内容)と高等教育(大学や専門学校など)の現状を、リアルに検証しなければなりません。

入試という「入り口依存」の強い、わが国の学校教育は、国連子どもの権利委員会から再三にわたり是正勧告を受けてきました。…そうした学校教育全体をどのように考えるのか。学校内外からの議論を深める必要があります。

全進研「春のセミナー2015」/「大学入試改革のねらいと、そのゆくえ」を、一緒に学び考えていきます。万障お繰り合わせの上、ぜひご参加下さい。

● 報告①改革案の中味と問題点/中学校の現場から

中村岳夫さん(都内公立中学校教諭)

全進研世話人代表。長く中学校の進路指導・進路教育の実践・研究を進めてきました。

● 報告②高校の進路教育の現状と課題/高等学校の現場から

諫山和可さん(前都立高校教諭)

大学進学希望者が多い都立高校で、独自の「キャリア教育」を、旺盛に取り組んできました。

● まとめの講演

大学入試改革のねらいとゆくえ

松田洋介さん(金沢大学准教授:教育社会学)

共著『復興と学校 被災地のエスノグラフィー』(岩波書店)、『青年の社会的自立と教育-高度経済成長期の日本における地域・学校・家族』(大月書店)、『講座:教育実践と教育学の再生/別巻戦後日本の教育と教育学』(かがわ出版)等

資料代500円、学生無料

主催 ■ 全国進路指導研究会

連絡先 090-9145-9892